

## 第2回 新潟港カーボンニュートラルポート形成協議会 議事概要

1 日 時 令和4年10月21日（金）14:00～15:55

2 場 所 新潟県自治会館 講堂

3 参加者 別紙のとおり

### 4 議事要旨

#### (1) 協議会委員の追加について

- ・ 事務局から資料1について説明し、今協議会から参加となる2委員を紹介した。

#### (2) ヒアリング報告

- ・ 事務局から資料2に基づき、8月から9月にかけて協議会委員を対象に実施したヒアリング結果及び新潟港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画策定に向けた論点について説明し、委員から、論点の内容や対象範囲等についての意見が出された。

#### (3) 新潟港カーボンニュートラルポート形成計画(素案)及び策定方針

- ・ 事務局から資料3、資料4に基づき、ヒアリング等を踏まえて作成した形成計画（素案）の内容と今後精査すべき事項について説明した。
- ・ 委員から、以下の意見が出された。
  - ▼ 事業者が脱炭素化投資に踏み切れるよう、行政支援のあり方についても計画に盛り込むべき。
  - ▼ 計画に記載するCO<sub>2</sub>削減の取組について、個々の企業名を明示する方向で調整する方針とのことだが、その目的を明確にしたうえで調整願いたい。個別企業の取組の遅れに焦点が当たることを危惧している。
  - ▼ 計画に「新潟港らしさ」という視点を入れるべき。大規模LNG輸入拠点、天然ガスのパイプライン等の既存インフラを活用したカーボンニュートラルな合成メタン拠点を目指すことも現実的な選択肢としてあり得る。技術確立までの間のCO<sub>2</sub>排出量削減にはカーボンクレジットの活用も要検討。
  - ▼ 水素・燃料アンモニア等に係る供給施設整備やサプライチェーンの

強靱化に関する計画については、行政が荷揚げ設備等を整備できるよう、必要な法整備・改正を進めるとともに、次世代燃料の大量輸入が見込まれる時期を見定め、そのタイミングと齟齬のないよう整理してほしい。

- ▼ 2030年に一定規模の水素経済が動き出すことを仮定し、そこに至る過程を本協議会で共有することが重要。あと8年でできることを検討し、具体的な道筋を意識した計画を策定してもらいたい。

#### (4) 意見交換

- 全国港湾や国施策の動きについて
  - ・ 北陸地方整備局から資料5に基づき、全国の港湾でのCNPの取組状況や国の施策、令和5年度概算要求の概要等について情報提供

#### (5) 今後の進め方について

- ・ 事務局から資料6に基づき、今後のスケジュール等について説明した。
- ・ 委員から、以下の意見が出された。
  - ▼ 資料2のp13～15で示された論点はいずれもスケールの大きな取組であり、次回の協議会までに結論を出すのは難しいのではないかと。港湾関係者と認識を共有しながら進めてほしい。
  - ▼ CO2排出量の削減は重要だが、脱炭素という新たな切り口で新潟港をどう発展させ、港湾競争力をつけていくかというイメージがあつてこそ、事業者は投資を考えられる。11月以降の個別協議では、CNPを通じてどのように地域の成長を図るのかを示してほしい。